

令和8年度 第5回サイエンスアカデミー
「～知ることからはじめる～私たちとヒグマのこれから」

1 日時 令和8年9月30日(水) 9:20～13:00

2 会場 札幌市円山動物園

3 講師 北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部
エネルギー・環境・地質研究所 自然環境部

日野 貴文 様

札幌市円山動物園 保全・教育推進課
飼育展示・診療担当課

細木 健太 様

中田 銀太 様

4 参加生徒 11名

5 研修の様子

今年度5回目のサイエンスアカデミーは、近年人との軋轢が大きな問題となっているヒグマがテーマでした。北海道のヒグマ研究及び政策検討の最前線でご活躍されている北海道立総合研究機構の日野様、エゾヒグマ館を有しヒグマについての情報発信も行っている円山動物園の細木様・中田様に講師をお願いし、ヒグマについて理解を深め、私たちとヒグマがどのように共存していくべきか考えました。昨年度から開始して今年度が2度目の実施でしたが、普段ヒグマがいる「エゾヒグマ館」内部に入れていただくなど、内容が一段と充実し生徒も大満足でした。ヒグマの生態や北海道における現状について理解を深め、今後自分たちがどのようにこの問題に向き合っていくべきかを考えるよい機会になりました。講師の先生方、誠にありがとうございました。

9:20	集合（正門）
9:30	受付・講義会場（エゾシカ・オオカミ舎）へ移動
9:45～11:10	講義「北海道のヒグマ～生態とあつれきの現状～」(日野様)
11:15～12:10	講義「動物園の役割とヒグマ ～博物館としての動物園～」(細木様)
12:15～13:00	観察「園内のヒグマ観察・解説」(中田様) ※エゾヒグマ館（屋外）

【研修の様子】



エゾシカ・オオカミ館をお借りして講義を行いました



日野様よりヒグマの生態や現状をレクチャー



ヒグマと他の動物の頭骨を実際に触って比較



細木様より動物園の役割についてレクチャー



実際にヒグマを見ながら中田様が解説



エゾヒグマ館の中にも入れてもらえました

6 参加生徒の感想

クマへの捉え方が変わりました。クマの被害を減らすために、これからの私たちの対応が一層求められてきているのだと思いました。実際に動物園でヒグマを見たときに、まず「おそろしい」と感じました。クマを狩るハンターたちは一番事故が多く、とても命がけの仕事だと思いました。ですが、クマを一概に恐れることは改善につながらないので、まずはクマのことを知り、私たちがクマが人に影響を与えないように対策をすることが大切だと思いました。

ヒグマの歴史や生態、現代が抱える課題について詳しく学びました。私はヒグマとは「共存」というより、互いの領域を侵さない適切な距離感を保つ関係が理想だと感じました。生ゴミや農作物の管理を徹底し、人里に引き寄せない工夫をしながら、生息地や行動を科学的に理解し、恐れすぎず侮りすぎない姿勢で向き合うことが、今後の現実的な共存の形だと思いました。

北海道のヒグマ問題に対して直接的に調査や研究を行い、今後の正しい対策に活かすという職業を初めて知り、とても興味を持ちました。また、実際にヒグマと遭遇した場合の行動について学ぶことができました。特にスプレーについての説明は、冷静な判断が必要になるということがよく分かりました。決して自分たちから遠くない問題だということを、今一度感じる事ができました。ヒグマを生物として正しく捉えることを意識していきたいです。

この講義を聞く前は人間とヒグマの共存は難しいと思っていたけれど、自然豊かな北海道に住んでいる以上共存していかなければいけないし、共存していくべきだなと思った。円山動物園が特に重視している「動物自身が選べる」環境を整える動物福祉を各所で感じる事ができた。至る所で動物に対しての工夫がなされていてすごいなと思った。

餌を隠して探索行動を引き出す環境エンリッチメントの実践や、バックヤードでの飼育管理を見学しました。採食行動や運動量を確保することが、動物福祉と健康維持に直結していると実感しました。動物園は展示だけでなく、生態の研究、種の保全、教育普及を担う博物館であり、野生での課題を来園者に伝える役割も大きいと学ぶことができました。